



らしい

Like You

ゆう～

夫 編

仕事と家庭、両立させたい夫婦、それぞれの思い...

妻 編

僕の理想 ♡
1人暮らし経験あり。料理も得意！

私もフルタイム勤務だから頼りになるわ

子どもも生まれたし、早く帰ってお風呂に入りたいな... (イクメン！)

私の気持ち ♡
育児休暇が終わり今日から仕事復帰。さあ、また頑張るぞ！

女性活躍の時代
少子高齢化が進み、日本の生産年齢人口が減少。女性の活躍が経済再生の力キ

僕の現実
今年から係長。部下のこと仕事のこと、やること盛りだくさん...

今日も残業しないと...

私の現実
ああ、まだ、仕事が終わらないのにもうこんな時間。保育園のお迎えに行かなくちゃ。

明日は、会議があるし夫にお迎えをお願いしたいけど...

オレは明日出張があるから無理。ごめん！

家では... 仕事に家事に育児に妻が毎日奮闘中...

子どもと遊んであげたいけど、夕ご飯の支度もしないと... 早く帰ってきてー！

本当は、仕事でやってみたいこともあるけど、残業はムリ。

夫は帰りが遅いし、家事も育児も、私がやらないと... 頼れる人がいない...

ストレス

今しかない育児にもっとかかわりたい！妻と一緒に仕事と家庭を両立させたい！

どっしたの、うまくいくだろう...

仕事と家庭の両立は、女性だけの問題？

女性活躍って、女性の負担が増すばかりなの？

PTA スツリ...

男女共同参画都市宣言記念講演「男女ともに輝き活躍できる働き方・生き方」より

長時間労働を前提としてきた「24時間働ける企業戦士と専業主婦」の上司(管理職)世代。仕事家庭ともに優先したい「共働き夫婦」の子育て世代。考え方のギャップ、理想と現実のギャップは広がるばかり。しかし、この上司世代にも、いつはじまるか分からない介護の両立が待っています。今から、イクボスを増やし、働き方改革を進めなければ、少子化時代・介護時代を乗り切ることができません。(次ページへ続く)



イクメン...育児に積極的に取り組む男性

“女性活躍”と“男性の育児家事参画”、“イクボス”は3点セット。イクボスが増えれば社会が変わる!

「男女共同参画都市宣言」を記念し、平成29年6月27日にイベントを開催しました。市長からは「市はここ数年、合計特殊出生率で県内1・2位を獲得している。この状態を維持するためには、子育てしやすく働きやすい環境づくりなど、男女共同参画社会の実現が重要になる。」とあいさつがありました。また、記念講演では元祖イクボス*の川島高之氏から『男女共に輝き活躍できる働き方・生き方』と題し講演をいただきました。男性の働き方を改善し、家庭・地域にもかかわっていくことは、女性活躍の一助を担うだけでなく、結果的に社員の満足度を高め、仕事の効率・成果をあげることにつながること、また、ワークライフバランスは経営戦略であることなどのお話がありました。

少子化対策や労働力の確保が社会全体の課題となっている今、個人の生き方や人生の段階に応じて多様な働き方の選択を可能にし、「定時退社」や「育休取得」など職場での男性の「やりづらさ」を改善していくことが、働きやすい職場・選ばれる企業となり、今後の少子化や介護社会を救うことにもつながっていくのではないのでしょうか。

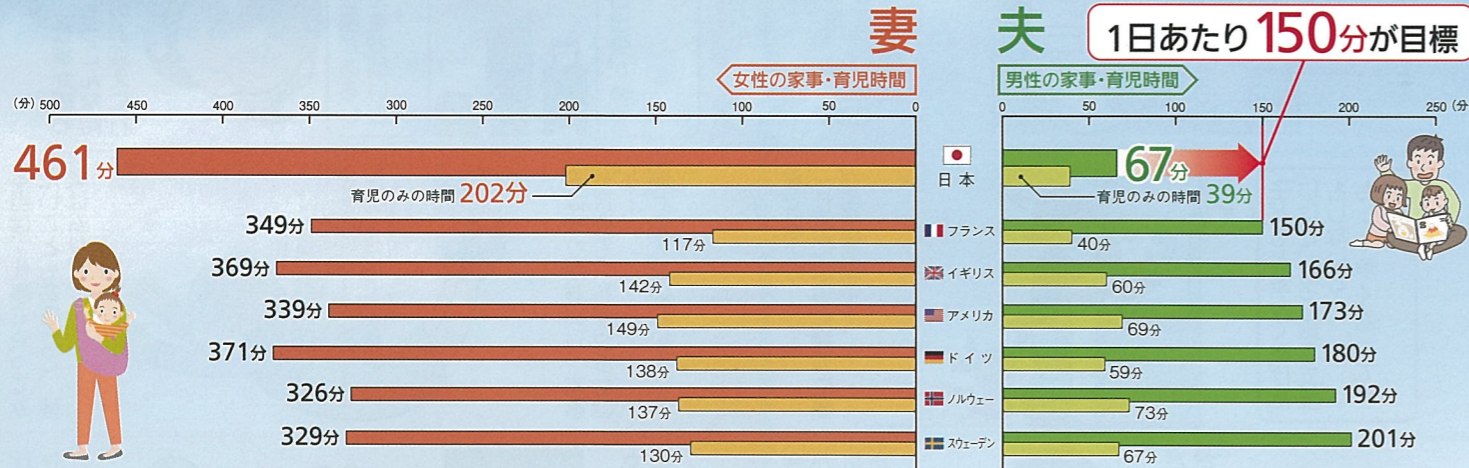
【参考】

男性の暮らし方・意識が変われば日本も変わる

内閣府男女共同参画局より

日本人男性も世界レベルの家事メンに

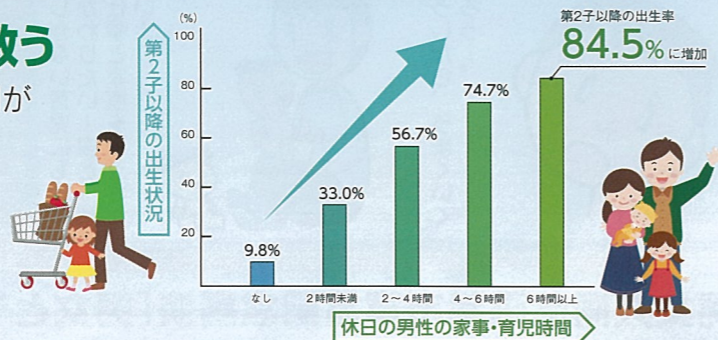
6才未満の子どもを持つ日本人男性の1日あたりの家事・育児時間を67分から2020年に150分に



男性の家事・育児が日本の少子化を救う

子どもがいる夫婦における夫の休日の家事・育児時間が増えると第2子以降の出生率が大幅に増加

出典：厚生労働省「第13回21世紀成年者縦断調査」(2014)



女性を取り巻く社会情勢が変わり、女性も仕事をもつことが当たり前になってきました。しかし、上記グラフのように、相変わらず家庭内の仕事(家事・育児・介護)は女性の負担が大きく、男性の性別による役割分担意識の改革は進んでいません。

一方、男性の仕事と家庭生活へのかかわり方についての調査では、家庭生活を優先したくても現実には仕事を優先せざるを得ない状況も見えてきました。



談話や対談などを特集する「くろーずあっぷ面面」。今回は栃木県が実施している「とちぎウーマン応援塾」に参加した田中陽子さんから、研修を終えた感想を寄せていただきました。

栃木県では「自ら一步を踏み出したい」「交流の幅を広げたい」など新たなチャレンジをめざす女性の想いやパワーを活かすためのお手伝いをしています。今回、田中さんが参加した「とちぎウーマン応援塾」は、講義や先輩リーダーとの交流等の機会を通し、ネットワークや活動の幅を広げ、地域活動等様々な分野で活躍する女性を応援する講座です。

～女性(わたし)の想いをカタチにしよう!～ 田中 陽子



NWEC男女共同参画推進フォーラム研修にて (前列右端が田中さん)

「自ら一步を踏み出したい」「交流の幅を広げたい」など、あなたの想いやパワーを活かすお手伝いをします!というテーマに惹かれ、とちぎウーマン応援塾2017(以下応援塾)に飛び込みました。そこでの講義やグループワークを通して、多くのことを勉強させていただきました。

応援塾では、一言では語りつくせないほど多くのものを得ることができました。受講者13名との出逢いと交流、グループワークを通しての自分への気づき、独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)[埼玉県]との出逢い。とても充実し、テーマどおりに一步を踏み出すことができたのではないかと思います。

特に県外研修「NWEC男女共同参画推進フォーラム」

への参加では多くのことを学ぶことができました。ソウルオリンピック柔道銅メダリスト山口香氏の特別講演では、様々なエピソードを交えながら、一人ひとりが勇気を持ち社会に声を発し、具体的に行動することの大切さと、性別に関わらず全ての人が能力を発揮できる社会のあり方について学びました。シンポジウムでは「自分が変わる、社会を変える」というタイトルのもと、男女共同参画推進の歴史・暮らしやすい社会をどう創出するか等を理解することができました。ワークショップでは、創作落語「じえじえじえ!じえんだー・はらすめんと?!」～男女共同参画の「ど真ん中」～に出逢い、男女共同参画について、もっと勉強したいと思うようになりました。



男女共同参画地域活動推進講座にて (後列左から4番目)

このフォーラムへの参加は、私にとって、とても有意義なものでした。応援塾で得たものを社会や地域に発信し、貢献したいという気持ちです。

このような学ぶ機会を持たせていただいたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。



県が募集している「とちぎウーマン応援塾」や「栃木県男女共同参画地域推進委員」、またさくら市の男女共同参画を推進する「さくら市男女共同参画推進委員」に興味がある方は裏面総合政策課までご連絡ください。誰もが住みやすく明るいさくら市を一緒につくっていきましょう!老若男女は問いません。

また、「とちぎ女性活躍応援団」への企業・団体等の登録も募集しております。携帯電話やパソコンで「とちぎウーマンナビ」または「とちぎ女性活躍応援団」と検索してください。



“DV”“児童虐待”と女性



DV(ドメスティック・バイオレンス)って、どんなこと?

好きな人ができたときのことを例にとって考えてみましょう。

好きな人と結婚・交際しているはずなのに、相手のことを「こわい」思ったり、その結婚・交際を「つらい」と感じたりすることがあるとしたら、それは、2人の関係がどこかおかしいのかもしれない…。

2人の関係が「対等」なら、こんなことは起こるでしょうか?

- ▶ 殴られたり、ばかにされたりする
- ▶ お金の使い道、他の人との付き合いを制限される
- ▶ 自分の気持ちがこわくて言えない



国の調査では、妻の約4人に1人が暴力を受けているとの報告があります。DVは被害者や子どもから“安心して健康に暮らす権利”を奪います。しかし、女性は経済的な問題や子どものことなどを理由に逃げることができない現状もあります。また、DVのある家庭の子どもは、特に自己評価が低くなったり、児童虐待につながる可能性も…。負の連鎖が始まり、大人になっても影響が残ることがあります。

児童虐待の現状

【児童相談所における児童虐待相談対応件数の内訳】

種類別 (H28年度速報値 厚生労働省)

身体的虐待	ネグレクト (育児放棄)	性的虐待	心理的虐待
26.0%	21.1%	1.3%	51.5%

身体的虐待、ネグレクト、性的虐待の割合が年々減少しているのに対し心理的虐待(子の前で家族に暴力を振るう、他の兄弟と差別的扱いをするなど)は増加の一途をたどり、虐待の半数以上を占めるようになりました。

虐待者 (平成26年度 厚生労働省)

実父	実父以外の父	実母	実母以外の母	その他 (祖父母、叔父叔母等)
34.5%	6.3%	52.4%	0.8%	6.1%

実母の割合が最も高くなっています。

虐待を受けた子どもの年齢構成 (平成26年度 厚生労働省)

0～3歳未満	3歳～学齢前	小学生	中学生	高校生等
19.7%	23.8%	34.5%	14.1%	7.9%

小学生が最も多くなっていますが、小学校入学前の子どもの合計は、43.5%と高い割合を占めています。

虐待の半数以上が実母によって行われ、就学前に虐待を受ける割合が4割を超えるなどの結果からも、核家族化が進み、育児中の母親への負担が増加していることが考えられます。

DV・児童虐待はなかなか相談に至らないことが多いです。しかし、日々悲しいニュースが流れています。DVと児童虐待には密接な関係があり、子どもたちにかかわるような案件も多々あります。さくら市でもDVや児童虐待の相談件数は年々増加傾向にあります。未然防止・早期対応には皆さんの見守りと協力が必要です。

ひとりで悩まず相談を! <相談窓口>

- DV・児 さくら市役所 児童課 ☎6 8 1 - 1 1 2 5 (月～金 9時～16時30分)
- DV とちぎ男女共同参画センター ☎028-665-8720 (月～金 9時～17時、土日 9時～16時)
- DV 認定NPO法人ウイメンズハウスとちぎ ☎028-621-9993 (月～金 9時～17時)
- 児 県北児童相談所 ☎0287-36-1058 (月～金 8時30分～17時15分)
- 児 児童相談所全国共通ダイヤル ☎189 (365日 24時間対応)